

# 野の花



第 90 号

発行  
社会福祉法人いわき福音協会

野の花ホーム

いわき市平上平窪字羽黒 40-51

TEL (0246) 24-1201

FAX (0246) 24-1202

メールアドレス  
soumuka@umail.plala.or.jp

## 歴史遺産を次世代に

所長 佐藤 護

「栄華を極めたソロモン王の装いも野の花の美しさには及ばない」。「働きもせず紡ぎも美しく装ってくださる」。



ホーム近景・夏

これは聖書の一節ですが、野の花ホームの施設名はここから引用されています。古代イスラエル王国のソロモン王はその知恵と才覚で物質の繁栄・栄華の頂点を極めますが、一見何の価値もないと思われる野辺の花との対比は何を物語っているのでしょうか。王国はソロモン王以後分裂し衰退しますが、野の花は美しくも逞しく永遠に花を咲かせ続けるのです。聖書の解釈はさておき、ハングドを背負い決して恵まれていたとはいえない施設の利用者(障がい者)の境遇と野の花を重ねると、命名者の思いと共に力強いメッセージとして響いてきます。野の花ホームの正面脇の外壁に野の花の象徴として大きな「ユリの花」が刻まれています。かつての聖書には、現在では野の花と記述している箇所が「ユリの花」と述べていたという経緯がありこれが由縁になっています。レリーフのユリはロゴマークとして活用され、施設のパンフレットや私自身の名刺にも使用しています。

乾燥地に適した花はアネモネではないかと言われています。ユリはもう少し湿潤な環境でないと群生は難しいのかも知れませんが。ただしロゴマークとして使うならメリハリの利いたシルエットを持つ「ユリの花」の方が断然適していると思います。野の花の永続性とは裏腹に施設で働く職員はどんどん入れ替わり、今では開設当初を知る職員は大変少なくなりました。恐らく野の花ホームの由来もよく分からない職員がいると思います。開設二十五年目ともなればやむを得ないのかも知れませんが、所属施設のルーツを辿りアイデンティティを確かめることは事業の継続性や方向性を検討する上で不可欠です。改めて施設の歴史を次世代に継承するために今何をすべきか考えさせられます。法人が事業を開始して六十四年が経過しています。初期に法人を担った先達は去り第二世代も第一線を退こうとしています。創設者の事業に対する思いや理念だけでなく、法人がこれまで実施してきた様々な事業について学び体験できる場を整備し、これらの歴史的遺産を未来に伝えていくことは私達に課せられた責務ではないかと思っています。

# ニューズクリック

## 2014 野の花ホーム 夏祭り

夏の定番と言えば、かき氷・プール・夏休み：などありますが、何より一番はお祭りでしょう！

野の花ホームでは、八月二十三日に夏祭りが開催されました。残念ながら事前の天気予報では雨：との予報でしたので、急遽、食堂が会場となり、「夏祭り」としてはホーム開所以来、初めて室内での開催となりました。

開式のセレモニーが終わると、祭りは、いきなりフラ・タヒチアンダンスグループ『ハーラウ・ラウラーナニ』さんたちによる華麗なダンスで始まりました。艶やかな踊りと常夏風音楽で食堂内は一



圧巻のフラ



響き渡るソウルフル・ヴォイス



瞬にしてハワイアンムード一色に染まり、皆さんはもう夢中：利用者の中には一緒に身体を動かしたり、歓声を上げて楽しんでいたりする姿も見受けられました。フラ・タヒチアンダンスが終わると、今回、祭りに初めての参加となる、全国大会準優勝ゴスペルグループ『The Gospo 246 groovies』の演奏です。ゴスペル曲だけでなく



皆さんご存知の「花は咲く」や北島三郎の「祭り」など様々な曲が披露され、聞く人の心と体幹に響き渡る、素晴らしい歌声とハーモニーを聞かせていただきました。

楽しい歌と素晴らしい歌声で心癒される時間を過ごした後は、毎年大注目の新人パフォーマー。今年は、異動＆新任職員五名と特別枠で司会進行役の大谷さんの計六名が参加しました。

演目は、闇鍋ならぬ『闇・かき氷早食い競争』で恐怖のかき氷が職員六名を襲いました。味については：ご想像にお任せいたします(笑)。

結果は四家さんが、不味さをものともせず一位勝ち抜け。でも、なぜかその彼が罰ゲームとして一発ものまね芸を披露することとなりました。そしてそのものまねの完成度の高さに、会場内は爆笑の渦となりました。トリのビンゴ大会も悲喜こ

もごもの歓声飛び交う中、盛況に行われ、楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。素晴らしい演目と、焼き鳥やかき氷、美味しい食事でお腹も心も一杯になり、参加していただいた各ボランティアの皆様の大変なご協力のおかげで、今年も無事、素晴らしい夏祭りを開催することができました。

(YUMI)



ヒ、ヒ、ヒ

# 『全国身体障害者施設協議会研究大会』に参加して…

生活支援員 細谷和輝

七月二十九日、三十日に神奈川県横浜市において開催された全国身体障害者施設協議会研究大会に参加し、「障害者権利条約批准後の支援について考えよう」というテーマの下、全国の施設から発表された研究結果を聴講してきました。

そもそも障害者権利条約とは、「全ての障害者が他の者と平等の選択機会を持って地域社会で生活する平等の権利を有することを認めるものとし、障害者がこの権利を完全に享受し、並びに地域社会に完全に包容され、及び参加するための効果的かつ適当な措置をとる」こと。つまり、誰もが、どこで誰と生活するかを選択でき、そこに必要とされるサービスを利用する機会を有し、地域社会サービス等を平等に利用できるということなのです。

これまで、障害とは「目が見えない」、「足が動かない」、「知的障害がある」等、体や心・知能の機能障

害と捉えられていました。が、今後は「社会のありようが機能障害のある方に対し障害・支障がある事が障害である」との考えが主体となっていくと思います。その講演の中で象徴的に使われた詩があります。金子みすゞの『私と小鳥と鈴と』です。「私が両手をひろげても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥は私のように、地面を速く走れない。私が体をゆすっても、きれいな音はでないけど、あの鳴る鈴は私のように、たくさんな唄は知らないよ。鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」

今回の研究大会で各事業所から発表された日中活動や入浴・食事、訓練等のさまざまな結果を受け、「みんなちがってみんないい」生活が実現できるよう活かしていきたいです。



## 平成26年度「野の花ホーム喀痰吸引等研修」参加者募集

平成24年から施行された介護職員等による痰吸引等の制度により、施設において、必要なケアをより安全に提供するため、適切に痰の吸引等を行うことのできる介護職員等を養成することを目的とします。

[研修日程] 平成26年10月29日(水)～30日(木)

[研修実施場所] 地域交流センター(野の花ホーム隣)

[定員] 20名

[受講対象者] 施設・事業所で勤務する介護職員等

[受講料金] 受講料10,000円・テキスト代1,000円

[申し込み期限] 平成26年10月24日(金)必着

※野の花ホーム喀痰吸引等研修に関する問い合わせ

Tel 24-1201(担当 角田)



利用者の窓  
水彩画・猪狩純一

## ホーム内及びホーム周辺最新放射線量測定結果

(2014.9.10現在)



(単位:  $\mu\text{Sv/h}$ )

測定場所	地上10cm	地上1m
玄関前	0.09	0.09
男子棟居室	0.07	0.07
女子棟居室	0.09	0.09
個室棟	0.07	0.07
食堂	0.09	0.09

# 野の花交差点

## 新採用職員挨拶

♥ 安藤 綾子(事務員)

一日も早く利用者様・職員さんのお顔を覚えて、皆さんのお役に立てるように頑張ります。

♥ ご指導をいただくことも多いと思いますが、よろしくお願ひします。

♥ 西山真由美(看護師)

この度ご縁があり、また野の花ホームに戻って参りました西山です。

笑顔で楽しく頑張っていくきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



♥ 松本 長子(調理員)

三人の子供の母で、ライブやサッカー観戦が趣味で、何事も一所懸命が大好きです。熱くなる事で気持ち的に若々しくありたいという願望があります。今は厨房のみなさんに早く近づけられる様、努力してまいります。

## カナン・野の花祭開催のお知らせ

毎年恒例の『カナン・野の花祭』が、来る10月5日に開催されます。職員・利用者一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

2014  
カナン・野の花祭  
10月5日(日)  
AM 10:00 ▶ PM 2:00

**会場**  
▼カナン村(障害者支援施設)  
▼野の花ホーム(障害者支援施設)  
▼光の家(生活介護事業所)  
▼大河内記念館(地域交流センター)

**内容**  
鼓笛隊 <小島保育園>  
和太鼓 <十和舞一鼓>  
吹奏楽 <湯本高校>  
ゴスペル <The Gospel 246grooves>  
フリーマーケット・ビンゴゲーム・他

**お問い合わせ**  
【14カナン・野の花祭実行委員会】  
住所 いわき市平上平直字羽黒40-51  
野の花ホーム内  
Phone 0246-24-1201  
Web <http://nnohohana.i-fakuin.com/>

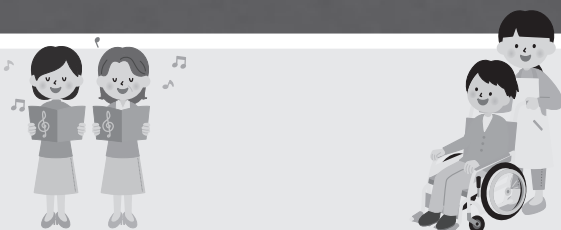
◆展示コーナー  
(施設紹介・作品展示・販売)



## 〈日中活動〉 日々の生活の一コマ



▶ 猛暑...中庭簡易プールにて



# 私を変えた一言・一冊 第16回

## 『勝利への近道はない』

生活支援員 草野 千春

### バイブル タイム



#### 第6回 「心が亡びる？」

牧師・黒田 昭一  
(いわき福音協会理事)

なんでも、「忙しい」と言う漢字は「心が亡びる」というところからきているそうですね。でも、人はどうして忙しくなるのでしょうか。具体例を三つ上げます。

「お前たちは万年三位だ。伝統ある〇〇高校を打ち破って勝つための努力をしてきたか？その努力をしない限り勝つことはできない。勝利への近道はないんだぞ！」

バスケットボールに打ち込んだ高校時代。私は、スポーツ特待生で入学を許可され、万年三位と言われていた私立高校に入学した。体育館は一つでコートは二面あったが、新体操部とバレー部が強豪校であったため、地区大会でも結果を残せないバスケットは一

つのリングしか使用させてもらえなかった。一面のコートを使用できるのは週一回、バレー部が休みの日だけである。小学校から始めたバスケットが、ハーフコート練習の経験はない。この環境で勝つための練習がどんなものか知らなかった。だからこそ、恩師の言葉の意味は何なのか深く考えさせられた。他校は日々、オールコートを使用し練習をしている。このままでは差が開く一方、という焦燥感ばかりが募った。当時

私の心は神様が造り、私たちに与えられたと聖書にあります。それならどうして心も心を造られた神を知り、神に信頼して癒されるほかにありません。「忙しすぎる」のはやがては、心もからだも滅びていくなら、その心を造り、与えてくださった神さまご自身がその心を落ち着かせ、安心へと変えられるようにお任せすることが大事ではないでしょうか。

聖書『神である主、イスラエルの聖なる方はこう仰せられる。「立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る』」。

イザヤ書 三十章十五節。



### 「花の日」with花と笑顔のプレゼント!

今年も六月八日(日)平バプテスト教会の方々から、大きなフラワーアレンジメントと子供たちの笑顔のプレゼントが届きました。子供たちと一緒に歌を歌ったりと、楽しい時間を過ごすことができました。心安らぐひと時、ありがとうございました。



☆平成十七年四月一日より、個人情報保護法の全面施行に鑑み、紙面内写真は、本人等の了解のもと、掲載しております。

ために朝練、昼練、自主練と極限まで練習量を増やし挑んだ最後の高体連：結果は「地区大会優勝、県大会ベスト4」。伝統校の壁を打ち破り初優勝を成し遂げた。

振り返れば、四分の一コートから優勝までの道のりは長く辛く過酷なものであったが、私にとって努力の過程は今も誇りであり、強みとなっている。

あの日、恩師が言ってくれた言葉―「勝利への近道はない」。大学を出、社会人となった今、この言葉は今も私の心の中で静かに、そして明瞭に鳴り響いている。

平成26年5月～8月の歩み

5月

- 8日 法人内部経理監査
- 9日 全国身体障害者施設協議会 協議員総会(東京1名)
- 11日 介護フェア (市内1名)
- 13日 家族会活動日
- 15日 法人監事監査
- 22日 故大河内一郎先生追悼祈念会 (シオンの丘)
- 27日 法人理事会・評議員会 (地域交流センター)
- 30日 県障がい児者福祉施設協議会 部会会議(郡山1名)
- 31日 庭山さとみ退職



6月

- 2日 法人創立記念日 法人役員職員表彰式
- 3日 家族会活動日
- 夜勤業務従事者健康診断
- 4日 障がい者施設職員等職員基礎研修 (郡山1名)
- 5日 全国身体障害者施設協議会調査研究委員会 (東京1名)
- 夜勤業務従事者健康診断
- 6日 夜勤業務従事者健康診断
- 8日 平パプテスト教会学校 花の日訪問
- 11日 社会福祉施設中堅職員研修会 (福島1名)
- 12日 春の清潔な環境作りの日(清掃)
- 23日 障がい児者福祉施設協議会 役員会(郡山1名)
- 30日 口腔衛生指導

7月

- 1日 東北ブロック身体障害者施設協議会 協議員会議(仙台1名)
- 家族会活動日
- 職員採用(西山真由美)
- 2日 福島県身体障害者施設協議会 第2回理事会(福島1名)
- 9日 カナン・野の花祭第1回実行委員会
- 14日 キャリアパス制度理解研修会 (郡山1名)
- いわき市北区更生保護女性会施設研修及び作業ボランティア (9名)
- 17日 ボランティア受入福祉施設等担当者研修(郡山1名)
- 全国身体障害者施設協議会調査研究委員会(東京1名)
- 22日 東北ブロックタイムスタディ調査検討委員会(仙台1名)
- 24日 福島県障がい者相談支援従事者養成研修(～25日/二本松市1名)
- 25日 県障がい児者福祉施設協議会 部会会議(郡山市1名)
- 地域保健関係職員等研修会 (市内1名)
- 29日 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程社会福祉施設初任者研修 (～31日/福島1名)
- 全国身体障害者施設協議会研究大会(～30日/横浜4名)
- 古賀一成・富澤春江 退職

8月

- 1日 職員採用(安藤綾子・松本長子)
- 4日 佐藤功さん写真展開催(～29日/ひまわり信用金庫)
- 5日 家族会活動日(家族会総会)
- 6日 業者によるクリーニング(～7日)
- 7日 福島県馬主協会補助事業事務説明会(福島1名)
- 19日 福島県障がい者相談従事者養成研修会(～21日/二本松1名)
- 20日 東北ブロックタイムスタディ調査検討委員会(仙台1名)
- 20日 鈴木喜子さん退所
- 23日 野の花ホーム 夏祭り
- 25日 いわき短期大学 介護実習Ⅱ-①(2名)
- カナン・野の花祭第2回実行委員会
- 27日 障害福祉サービス事業者等団体指導者講習会(市内)
- 28日 福島県身体障害者施設協議会 第3回理事会(福島1名)
- 29日 東北ブロック身体障害者施設協議会 協議員会議(仙台1名)

\*定例:喫茶「麦」毎月第4木曜日開店

トピックス

お疲れ様でした!

- ▼次 長 古賀 一成さん
- ▼看護師 富澤 春江さん
- ▼生活支援員 庭山 さとみさん

大変お世話になり、ありがとうございました。今後のご活躍を期待します。

我流点晴

不安な兆候は昨年から今年にかけて、ニュース等で主に海の異変として散見されていきました。例えば、リュウグウノツカイ、サケガシラ、ダイオウウイカといった、普段お目にかかれないような深海魚が日本中のあちこちの港で捕獲されたり、浜辺に打ち上げられたりしたこと。また、一般の魚でも、獲れるべき所で獲れず、なぜこんな所で?といった場所で大漁となったこと etc.

そんな中迎えた今夏。日本列島は、またしても「異常気象」に見舞われました。

八月後半に広島を襲った大規模土砂災害のように、西日本を次々に襲った集中豪雨による被害は、その各地区の住民をして一様に、「数十年ここに住んでいながら、こんなのは初めて」と言わしめるほど酷いものでした。わが福島県でも『平成二十三年七月新潟・福島豪雨』の被害により、現在でも会津川口駅と只見駅間が不通となったままです。これら、いずれの被害にも枕詞のように「観測史上初」や「観測史上最大」、「数十年に一度」という言葉が使われます。しかしこれらの言葉は、近年、毎年のように聞かされる訳で、こうなるもはや、常態化した「異常」は、「通常」と同じであっ

お知らせ

野の花会と称し、各戸を訪問している募金活動は、野の花ホームとは一切関係ありません。

写真 佐藤 功  
編集 猪狩 純一

て、「想定外でした」という明が虚しく響くばかりです。今後ますます「異常を想定内」とした災害対策が必要となってくるのは明らかなことで、施設に暮らす私たちにとっても、今まで以上に、その危急に対する自覚が必要となるのは、論を俟たないことです。

(Jun・I)